

# なごやぬいぐるみ病院活動報告書

文責 名古屋市立大学 3年 大羽 輝

## 概要

- i. 実施日時  
: 2012年3月9日(金) 16:30-17:30  
※赤ペン先生は3月15日(木) 11:00-12:00で実施
- ii. 実施場所: 学童保育所 ポピンズアフタースクール  
(名古屋大学東山キャンパス敷地内)
- iii. 対象児童: 11名(小4:1名、小3:3名、小2:2名、小1:5名)
- iv. 学生数: 20名(3年1名、2年13名、1年6名)

## 当日の流れ

| 時刻          | グループA (一年生5人) | グループB (二年生以上6人) |
|-------------|---------------|-----------------|
| 16:30~16:35 | アイスブレーキング     |                 |
| 16:35~16:55 | ぬいぐるみ病院       | 保健教育            |
| 16:55~17:00 | 移動            |                 |
| 17:00~17:20 | 保健教育          | ぬいぐるみ病院         |
| 17:20~17:30 | 片づけ、あいさつ、撤収   |                 |

## 保健教育の内容

今回は、「障害」というテーマで保健教育を行った。

<テーマを選んだ背景>

・今まで「手洗い」や「応急処置」など、わりと具体的な医療知識を保健教育で提供していたが、今回は少し方向性を変え、他大学でもあまり例の少ない、「障害」というテーマで保健教育を行ってみようということになった。

<この健康教育を通してどの様になって欲しいか>

・障害者の方に対する理解を深め、障害が特別なことではないことを理解すると同時に互いに助け合える人になって欲しいと望む。

<方法>

・説明は、紙芝居形式で行った。はじめに、「勉強のできる子・苦手な子」、「足の速い子・遅い子」「絵を描くのが上手い子・苦手な子」など、いろんな得意・苦手が人に

はあるが、それを「個性」と呼ぶことを教え、その上で「障害」もひとつの「個性」のあり方であることを伝えた。次に、視覚障害、聴覚障害について簡単な説明をしたのち、色盲メガネ、視野狭窄メガネなどを使って視覚障害を、ノイズの混じった昔話を聞いてもらうことで聴覚障害をそれぞれ体験してもらった。そして最後に、頭の良い子は勉強の苦手な子に勉強を教えるように、またその勉強の苦手な子は運動が得意であれば頭の良い子に運動の仕方を教えるように、障害をもつ人に対しても助け合って生きていこうねという内容で終えた。

<その方法を選んだ理由>

・ただ話を聞いているだけではすぐに退屈になってしまうことが予想されたため、できるだけ子供たち自身にも体験してもらい、飽きさせないように工夫した。また、自分で見て、聞いて、感じることで、より強く子供たちの印象に残るようこの方法を行った。

また、精神障害、発達障害まで含んでしまうと範囲が膨大になってしまうため、今回は身体障害を述べるにとどまった。

### **ぬいぐるみ病院の内容**

今回、学童としては初めてぬいぐるみ病院を行った。カルテを一部改善し、三日間のお約束の後にぬいぐるみがどうなったかなどの欄を新たに設けたカルテを使用した。また、学童では学校帰りで、ぬいぐるみを持ってこれない子供が多いだろうとの配慮から、今回は学生が手作りで作った手のひら大のぬいぐるみを使って実施を行い、ぬいぐるみは実施の記念として子供たちに持ち帰ってもらった。

### **総括**

#### **保健教育**

<工夫した点>

色盲メガネや加工音声などを使って、身の回りにあるものでなるべく障害者の方が感じているであろう不都合感を子供たちにも体験してもらえるように工夫した。また、「障害」が「個性」の一部であるというように話を展開していき、子供たちにとって「障害」がけして特別なものではないということに重きを置いて説明を行った。

その中で「無意識の差別」(例：障害者を助けよう!←差別するものなの?/障害者を助けよう!←助けるべきものなの?/おかしいことじゃないよ!←おかしいことなの?)を含んでしまわないよう、話す内容、言葉には十分配慮した。

<参加学生の反応>

・障害という難しいテーマを扱ったため、内容の練り直しに多くの準備期間を費やし

てしまった結果、当日の学生の準備不足がやや露呈してしまったように感じる。また、「個性」や「障害」という言葉の意味を的確に知っている子もおり、そのようなこの指摘に関してやや動揺している学生もみられた。

<園児の反応（よい反応が得られた点について）>

- ・障害について新しいことを沢山知ったという意見があり、子供によっては聞きなれないテーマであったため、わりと興味をおって聞いてくれていたように思う。

<園児の反応（よい反応が得られなかった、もしくは収拾がつかなくなった点）>

- ・前半の、体験に入るまでの導入の話が長かったようで、途中でよそ事をする子が低学年にみられた。

<失敗した点>

- ・難聴の音源の操作方法が分からず、再生までにまごつく事態があった。
- ・当日までの練習不足はやはり否めず、台本の一部をカットした場面があった。

<その他>

- ・予想以上に子供の知識が多かった。「個性」や「障害」ということに対してしっかりと知識を持っている子もいた。

## **改善点**

### **保健教育 1**

<失敗した点を踏まえての改善点>

- ・早い段階である程度の方向性を決めておき、早めに台本を完成させておくのが望ましい。
- ・事前のリハはしっかり行っておくべき。台本を変更するにしても、実践を通した方が当日との誤差は少ないように思う。
- ・もっと学生が準備期間から来てほしい。テスト期間と被っていたこともあったが、必要であれば2ヶ月前くらいから準備を始めてもよいと思う。
- ・上手く興味を掻き立てるファシリテーション能力をもっと学生はつけるべきだと思う。
- ・実施時間を何とかして延ばしたい。今回は20分しかなかったため、あまりしっかりと話ができなかったが、障害というテーマを理解するにはそれだけの時間が必要なのではないかと考える。

<アンケート結果を踏まえての改善点>

- ・子供たちの知識が思った以上に多かったため、保健教育の内容を考えるとどこまで説明するかについては考えておくべき。
- ・当日の流れを事前に全体で打ち合わせ、なるべくぬいぐるみ病院ブースと同時に終われるようにしたい。
- ・保健教育の全体的に、学生が手際よく動けると良い。
- ・訪問前にある程度準備できる場所は準備すべき。

## ぬいぐるみ病院

### <失敗した点を踏まえての改善点>

- ・事前にある程度の病気の知識をつけさせた状態で、その病気に対するイメージがより明確な状態で問診を行えるとなお良いと感じた。「いつごろから？」や「こころあたりは？」という質問に対して、「そんなのわかんない」という子がいたという報告があった。
- ・初心者が多いということがあり、当日の対応や知識に関して予習不足が目立った。特に初めて実施を経験する人たちに対しては十分に練習をさせておくべきであった。
- ・本番の流れを保健教育と合わせてシミュレーションしておく方が良いと思った。

### <アンケート結果を踏まえての改善点>

- ぬいぐるみ病院で説明を受けた影響か、病院で使う医療器具について知りたいという意見があった。
- アンケートの満足度が最も良いのはぬいぐるみ病院であったため、実施全体についてはおおむね成功したといえると考えます。
- また、救急医療(AED、テーピング)、栄養学、世界の食事情を学びたいという意見も聞かれ、今後に向け、大いに参考になった。

以上